

学力の概況

国語 A

国語 B

国語の正答数については、A・B 問題とも、全国や大阪府の平均と比較して、ほとんど上回っています。

特に成果が見られた問題例

- 漢字を正しく読む
- 文章や資料から情報を的確に捉える
- 場面の移り変わり、登場人物の行動や気持ちの変化を捉える

特に課題が見られた問題例

- 文を構成する主語を捉える
- 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く

国語の学習を進めるにあたって

普段の生活において、他の人の話を聞く際には、相手の話の目的や意図を十分聞き取ること、取り上げられた内容について、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことを整理し、自分の考えをまとめるよう、心がけることが大切です。これが、中学や高校など進学後、そしてさらには社会に出たときにプレゼンテーションをする機会がさらに多くなった時に、役立つと考えられます。学校としては、国語の授業だけではなく、他の教科、他の領域での学習活動において、このことを踏まえた学習指導を展開してまいります。

算数 A

算数 B

算数の正答数については、A・B 問題とも、全国や大阪府の平均と比較して、ほとんど上回っています。

特に成果が見られた問題例

- 異分母の分数の減法の計算をすることができる
- 示された図形と、円の性質や二等辺三角形の性質を関連付けてとらえることができる
- 日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる

特に課題が見られた問題例

- 見取り図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解する
- 概数や概算を活用して目的に応じて判断し、その判断の理由を表現する
- 示された考えを基に、条件を変更した場面での考察・処理をする

算数の学習を進めるにあたって

算数の問題でも、判断の理由や根拠を文章で答える問題が出題されています。日常生活の中で、情報が多く複雑な場面や、正確な情報が得られない場面でも、算数の学習内容を用いることにより、問題解決を図ることができる場合があります。

今後、学校では四則計算などの基礎的な学習内容の反復練習を行い、さらに確実な計算力が定着するように取り組みます。また、指導に当たって、学習したことをさらに発展させて新たな問題を設定し、場面や数値が変わっても活用できるかどうか、机上だけではなく話し合いながら問題解決していくという取組みを進めてまいります。

理科

特に成果が見られた問題例

- 金属の温度による体積変化について、グラフを基にして考察する
- 生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を、視点をもって考察・分析する
- 水蒸気は水が気体になったものであることを理解する

特に課題が見られた問題例

- 植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用してその内容を記述する
- メスシリンダーの名称を理解し、メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身につける
- 星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身につけ、星座や雲の動きについて観察記録をもとに考察・分析する

理科の学習を進めるにあたって

理科の学力調査は、平成24年度以来3年ぶりの実施となりました。今回は本校の受験者は4名だったこと、問題の出題分野が前回と異なるものであったことから、校内での比較は難しいため、記述しませんが、全国的に見て、受験者の得点の差は狭まったようです。本校の児童については、算数・国語と同様、理科についても全国・大阪府の平均を上回る結果となりました。しかし、課題となる点は非常に多く、たとえば実験道具の名称・適切な操作方法など基礎的な事項について、もう一度振り返りながら、小学校6年間のまとめを進めていきます。

まとめ・・・全教科を通して

本校の児童の、調査の結果を見て、正答数の多さもすばらしいですが、それ以上に特筆すべきことは、「無回答」がないということです。つまり、あきらめず最後まで、粘り強く、問題に取り組む姿勢が、身につけているということです。

若い世代の人の「理科離れ」が進んでいるといわれていますが、その一方でノーベル賞の受賞者がほぼ毎年、日本からも選ばれています。その方々のエピソードに共通するのは、「失敗してもあきらめずに継続する」ということです。本校では理科や生活科・総合的な学習など教科や領域学習と関連付け、体験学習に多く取り組んでいます。今後も、学校としては、子どもたちの探究心を育むための体験学習を継続していきます。

子どもたちには、中学校進学後も、本校で得た経験と、持ち前の粘り強さで、さらに充実した学校生活をすごされることを期待しています。

児童質問紙から

大規模校では、それぞれの質問と、教科の調査結果を関連付けて分析していますが、本校では、児童数が少ないため、良い傾向があったものと、今後学校と地域家庭が連携して取り組むべきものをあげてみました。

よい傾向がみられたもの

- 朝食を毎日食べている
- 友だちと話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる
- 家で学校の宿題をしている
- 学校のきまりをまもっている
- 人の気持ちがわかる人間になりたい
- 友だちとの約束を守っている
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- テレビゲーム、インターネットをする時間が1時間以下

課題となること

- 地域や社会をよくするために何をすべきか考える
- 新聞をよく読む